



Glass Finishes

3M™ ウィンドウフィルム 飛散防止フィルム

Case Study 2024

安全への高い意識が
万が一の危険を防ぐ

横浜銀行本店



高いリスク管理に基づく 安全対策見直し

横浜銀行は、増加する自然災害などのリスク管理の一環として安全対策を強化してきた。ガラスの安全性についても管理会社と相談をしながら見直しを行い、ガラスの種類、厚さ、設置場所を考慮して、適切な飛散防止フィルムを貼る方針を決定した。

横浜銀行本店前のペDESTリアンデッキのガラス手すりについては、人通りも多い場所で厚みのある強化ガラス（12mm厚）が使用されていたため、汎用的な飛散防止フィルム（基材厚50μm）よりも飛散防止性能の高いSH4CLARX2（基材厚100μm・外貼仕様）にて2020年に貼替を実施した。同様に各支店においても計画的な貼替を実施している。

事前の安全対策が重大事故を防いだ

2024年3月、何の前触れもなく、そのガラスが突然割れた。普段人通りが多い場所なので、もし、ガラスが飛散していたら重大事故に繋がっていた可能性もあったが、事前に貼った飛散防止フィルムによって、脱落やガラス片の飛散も防ぐことができた。



ガラスが割れた箇所（エスカレーター上のガラス手すり・赤丸部分）の周辺写真。

横浜銀行本店

会社名：株式会社横浜銀行
所在地：神奈川県横浜市西区
みなとみらい3丁目1-1
採用製品：3M™ ウィンドウフィルム
飛散防止フィルム
遮熱フィルム 各種
採用時期：2007年。順次貼替を実施





横浜銀行様のガラスフィルム選定例

使用目的	使用例	選定フィルム例
安全対策 (地震等)	ビルの 外壁のガラス	SH4CLAR (飛散防止タイプ 基材厚100μm)
安全対策 (地震等、屋外)	屋外のガラス (手すり等)	SH4CLARX2 (飛散防止タイプ 基材厚100μm外貼仕様)
安全対策と 遮熱対策の両方	ビルの 外壁ガラス	NANO80S (遮熱タイプ)

条件によって異なる 最適なガラスフィルム選定

ガラスフィルムをガラスに貼ることで、台風や竜巻などによる飛来物の衝突時や地震の揺れによって、ガラスが割れた際の飛散防止対策をすることができる。但し、そのためにはガラスの種類、厚さ、設置条件、想定されるリスクなどを考慮して複数のガラスフィルムから最適な製品選定をする必要がある。

飛散防止フィルムの
詳細はこちら



地震発生時の什器などの転倒衝突、台風・突風による飛来物衝突、強化ガラス自然破損が想定されるケースでは汎用的な透明飛散防止フィルム SH2CLAR (基材厚 50μm) より強固な SH4CLAR (基材厚 100μm) 以上の飛散防止性能が必要となる場合がある。

ガラスフィルム有無による 比較実験

スリーエム ジャパンにて実施した比較実験で、ガラスフィルムが貼られていない場合、強化ガラスが割れると、ガラスは僅かな衝撃で飛散した。実際に割れたガラスを長期間放置した場合、風や接触の影響で、ガラスが崩れてしまうので、危険が伴う。



一方、ガラスフィルムが貼られている場合は、強い圧力をかけても飛散しなかった。実際に割れた際でも、一定期間はガラスが飛散せず、保持されやすい(ガラスの飛散、脱落防止を保証するものではありません)。



比較実験動画は
こちら



お客様の課題

- ・ガラスへの安全対策
- ・どの製品を選んでよいか分からない

3Mのソリューション

- ・様々な安全性能を持ったガラスフィルム製品
- ・過去の豊富な実績や検証データを踏まえた提案

留意事項：紹介事例やお客様の声の内容は、同様の結果を保証するものではありません。製品を評価し、用途に適しているかどうかを判断するのはお客さまご自身の責任となります。製品情報については、3Mが発行する製品説明書・取扱説明書をご参照ください。

詳細は、3M™ ウィンドウフィルム Web サイトをご確認ください。
https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/building-window-solutions-jp/scotchint-window-film/

3Mは、3M社の商標です。



スリーエム ジャパン株式会社
<http://go.3M.com/GF>

Please Recycle. Printed in Japan.
 © 3M 2024. All Rights Reserved.
 RED-374-A(0924)

カスタマーコールセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで

0570-012-123

9:00-12:00 13:00-17:00 / 月～金 (土日祝年末年始は除く)